

基督伝記朗吟集

井上活泉

特
4

020554-000-8

特53-453

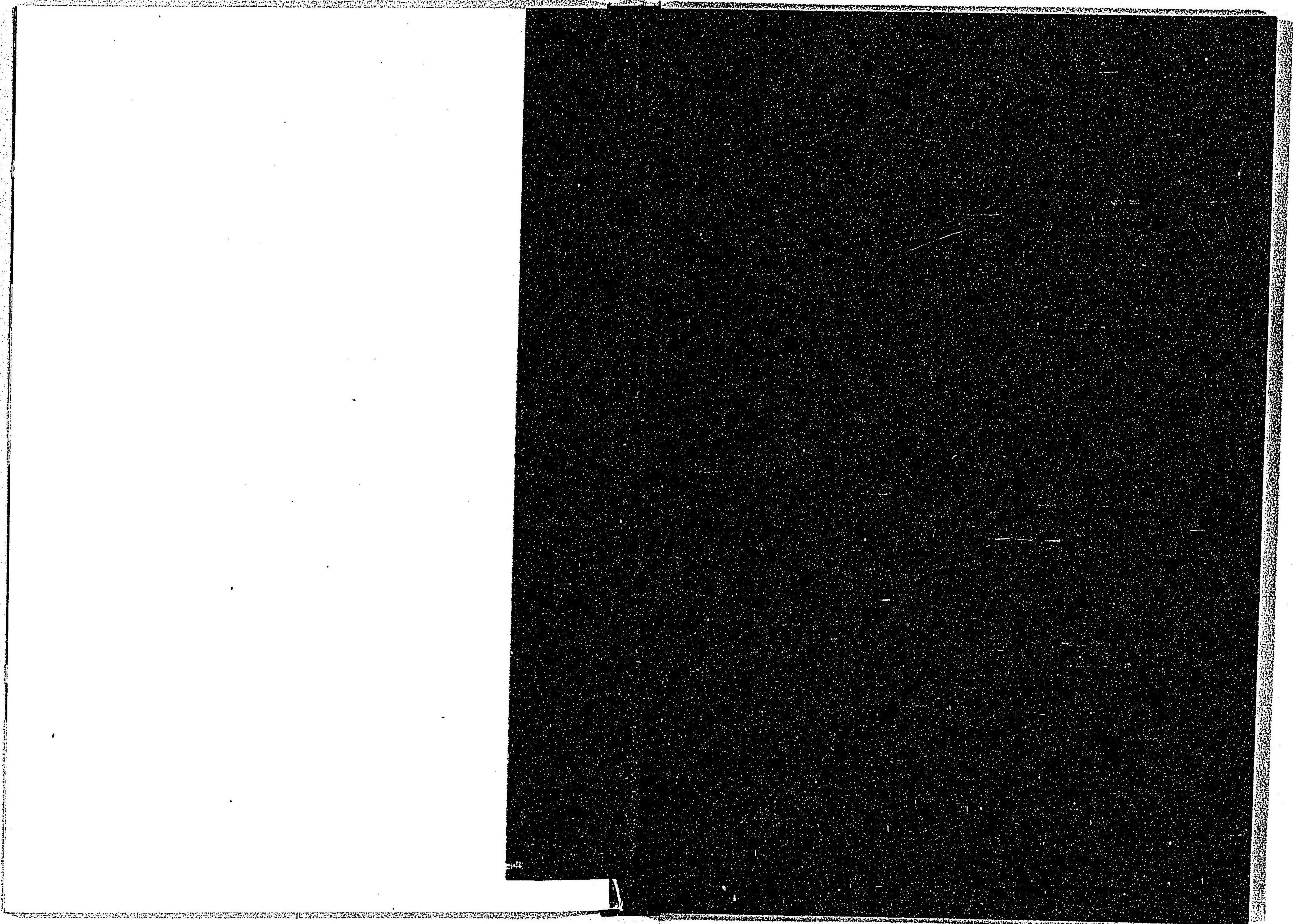
基督伝記朗吟集 附，祝日詩集

井上 活泉（文慈郎）／著

M32

ABI-0367





R-19

159

112

井上活泉著

基督傳記朗吟集

附祝日詩集

書肆福音社發兌

自序

予の詩癖あるや、酒嗜の酒を飲むが如く、餅嗜の餅を食ふが如し、奉教以來此癖益々烈しきを加へ、主人の好きを客も振舞ふの念の愈々切なるに至れり、朝夕家庭のてび風琴に合せて朗吟すれば、神人以て和するの興味に驅られて、生れ付の痼疾の何處に逃去しを知らず、予は聖徒の書簡に得々たり、曰

基督
傳記

朗吟集

井上活泉著

第一

イエスキリストへムよ降誕、東方の博士
等來拜す (馬太傳二章一節二節及九節十節參照)

尋眞客跨駱駝行。

喜見靈星當廐明。

獻頌肅然齊屬耳。

呱々聲裡大名轟。

第二

牧羊者榮光に驚き、天使讚美す
(路加傳二章八より十四迄參照)

牧人露臥護羊群。

五色雲間認萬軍。

廣樂洋々山欲躍。

福音如此未曾聞。

く、互に詩と歌と靈に感じて作れる賦とを
以て語りあひ、又咏ひて爾曹の心に主を讚
美すべしと、是則福音社書舗の世に公にせ
んと欲するに任かす以所なり、驢骨出して
以て後の駿馬を待つ。

活泉誌す

第二

イエスの両親神殿に犠牲を献じ老男女讃歎す
(路加二章、廿二—三十一、及卅六節—卅八迄)

阿爺掌上鳥成牲。聖母懷中玉有聲。
眉雪嫗翁俱讚美。朦朧雙眼抵分明。

第四 ヘロデイエスを殺さんとし両親護してエチプトに逃る
(馬太二章十二—十六迄)

四隣草木血痕醒。爺孃知機早隱形。
此景此時何以比。麒麟兒跨鳳凰翎。

第五 イエスエチプトよりナザレニ歸る
(馬太傳二章十九節より卅三)

天焉容壽一夫狂。遮莫狡童尋稱王。

第六

歸去來兮山谷底。鳥歌花笑亦榮光。
イエス十二歳よして天父を両親に説き迷兒とならざりしを明ます
(路加二章四十一—四十六及四十八—四十九)

成長經過十二年。又登神殿了前緣。
吞牛氣既警狼狽。膝下慇懃說彼天。

第七 イエス十二歳後の生活、三十よして立つ
(路加三章廿三節)

衆人刮日向神童。議論風生天父皇。
十八年間雲蔽迹。卅而立處氣吹虹。

第八 イエスバプテスマのヨハチより洗禮を受く
(馬太三章十三節—十七)

河水清澄足洗心。周旋進退豈違箴。
溫光含蓄象如玉。天上阿爺靈有音。

第九

イエス四十日斷食して惡魔の誘惑に克つ

(馬太四章一節—十一)

四旬禁食本精神。大鬼椰榆亦點塵。
霹靂一聲彈舌去。青山流水見天真。

第十

イエスに入門せし最初の弟子たち

(約翰傳一章二十五—四十九)

瞥見當初門下生。欲依驥尾博功榮。
取將右手從頭數。一二三名及五名。

第十一

イエス婚筵に招かれ、奇跡を行ふ

(約翰二章一—十二)

婚姻禮典事非輕。幾斗葡萄桃不得傾。
村學休言渠厭世。樂夫天命表人情。

第十二

バプテスマのヨハネ獄中より質門使を遣はす

(馬太十一章二—六)

君子勞心縲絏中。切望明主立奇功。
門生忽報福音好。死者亦蘇聾者聰。

第十三

イエス神殿を革清す

(ヨハネ傳二章十三—十七)

山河空美國無光。群小營々瀆聖堂。

靖獻精神祈禱力。鞭聲肅々拂牛羊。

第十四 紳士ニコデモ夜分にイエスを訪ふ (約翰三章一―八)

大官懷刺夜敲門。得與神人子細論。

月到天心風拂水。新生言下復消魂。

第十五 イエスママリヤの婦人を教ふ (約翰四章三―三十四)

井邊箕踞說神泉。興味無端舌有天。

忘食尤憐村婦信。一人報道及三千。

第十六 ベテスマ池上に長病者愈さる (約翰五章一―九)

慈悲池畔養痾身。三十八年含垢塵。

蹶起銘肝安息日。欣々偏頌一神人。

第十七 イエス徹夜の祈禱、拾二使徒撰ばる (路加六章拾二、馬可三章拾四―拾九)

通宵祈禱太凝神。去見衆中十二人。

君子撰之何陋有。堂々天職付黎民。

第十八 イエス山上の大説教 (馬太五章六章七章)

山上愍懃說福音。大慈顔色照人心。

天來妙舌捲風雨。一結長留知行箴。

第十九

イエス弟子を派遣するの訓諭 (馬太拾章拾六、拾一章一)

虎狼世界送鳩羊。暗涙數行先濕腸。
大義滅親言切々。浮生骸骨屬君王。

第二十

イエス小兒を最大者と稱して弟子を警む (路加九章四拾六―四拾九)

忽喚嬰兒做偉人。愛他淡泊近天真。
諸生早聽聖明訓。猶趁榮華名利塵。

第廿一

イエス此世の王として擁立せらるゝを避、永生の王たらんを力む(約翰六章拾四―廿七、及五拾一)

大君不敢動干戈。驥尾龍鱗望者多。

戰在眼前人未悟。一身是膽說曼那。

第廿二

浮徒離散の後、ペテロイエスを神の子と確言す (約翰六章六拾五―六拾九)

衆心離散似浮雲。門弟蕭々對夕曛。
進膝一人言亦信。活神之子永生君。

第廿三

イエスペテロに魚を釣しめ、税金を納めしむ (馬太拾一章廿四―廿七)

不嫌稅吏欲催錢。閑使一竿投海濤。
可見掌中魚潑漉。證來造化愛人深。

第廿四

イエス殺身回生の事を明言し、ペテロの未練を叱す (約翰拾二章廿三、廿四、馬可八章卅一―卅三)

既將麥粒比其軀。壯髮衝冠向大都。
叱做撒彈驚彼得。愈期十字架頭劬。

第廿五

イエス一婦人が二子を托せんとする情を警戒す
(馬太廿章廿一—廿三)

復看一婦要求來。左右何時舉二才。
明主中腸霑暗淚。話他洗禮與深杯。

第廿六

イエス大ならんと欲る者は役るゝ者と爲べきを
説く
(馬太二拾章廿四—廿八)

履冠顛倒亦非狂。爲小爲奴是大王。
切矣現身眞說法。千辛萬苦替人償。

第廿七

イエスラザロを蘇生せしむ

(約翰拾一章)

欲爲親朋除病魔。行看姊妹淚滂沱。
慇懃自說回生主。喚起塋中拉撒羅。

第廿八

イエス一婦人の瀧ぎ呉し香油を嘉みし惡批評者
を戒しむ

(馬太廿章六、七、拾二、拾三、約翰拾二章五—七)

偏憐巾幗野芹誠。背指獸心人面評。
玉露滿身香馥郁。福音達處共傳榮。

第廿九

イエス驢に乗てエルサレムに入る、讚美制し得
る者なし
(路加拾九章廿九—四拾)

萬歲歌添萬福王。感恩驢馬亦揚々。

普天率土誰障口。口若成堤石作羊。

第二十

イエスの能辨、難問者の閉口
(馬太廿一章廿三—廿七、馬可拾二章十三—廿七)

隨問隨應皆盡忠。擠排無策姦黨窮。

請看貫日舌鋒銳。吹起東西南北風。

第卅一

イエス憂國の歎息
(馬太廿三章一、二—三十六)

牝鷄張翼喚群雛。比喻似描麥秀圖。

慈眼難禁憂國淚。前途搔首幾踟躕。

第卅二

ユダ敵も通じて銀額を約す
(馬太廿六章一—五、十四章十四—十六迄)

狼心羊面本非人。射利眸迷暮夜銀。

察々明君將大度。待時欲證四知眞。

第卅三

イエス弟子の足を濯て相愛の摸範を示す
(約翰十三章一—十五)

水盤在手太慇懃。濯足事新言亦薰。

君子溫風相愛例。何邊草莽不欣欣。

第卅四

イエス晚餐後、橄欖山に往く
(馬可十四章廿二—二十六)

傾杯劈餅感何如。臨別先云請記余。

新約方成向橄欖。悲歌一曲御無驢。

第卅五

イエスゲツセマ子に苦禱後敵襲來す
(馬太二十六章卅六、約翰十八章一一七)

園中夜景不尋常。汗血霑衣幾斷腸。

一二三回祈畢後。玉顏照敵有餘光。

第卅六

イエス祭司長の處に曳行れ妄證に對して答辨せ
(馬太二十六章五十七一六十四)

聖經有命復奚疑。直指從容就義時。

守口如瓶亦眞實。無聲妙答上天知。

第卅七

イエス祭司長は再來を預告しペテロ庭邊に徘徊す
(馬太二十六章六十三一六十七、馬可十四章五十四)

侃然預告御雲來。唾面拳頭且忍哀。

友如群羊去無跡。爐邊纒認石徘徊。

第卅八

ペテロ鷄聲に悔悟を催され、ユダ縊死す
(路加二十二章五十六一六十二、馬太廿七章三一五)

三叫鷄聲三顧眸。透他頑石忽啾々。

此間怪物更狼狽。縊死無端自引尤。

第卅九

ピラトの不決斷、バラバの解放
(馬太二十七章二十一二十六)

判官不斷奈無辜。洗手偷安事最迂。

誣告人多天未定。把他一賊換耶穌。

第四十

イエス嘲弄せられて後、刑場に赴く
(馬太二十七章二十九一卅一、路加廿三章廿七、廿八)

葦笏棘冠嘲笑頻。又擔大任步風塵。
眼看婦女來流淚。却爲兒孫說苦辛。

第四十一

イエスの十字架、七つの遺言
(路加廿三の卅四—四十六、約翰十九章廿五—卅
馬太廿七章四十六)

十字架頭甘殺身。早期取義又成仁。
血痕凜々千秋在。七事遺言是寫真。

第四十二

イエスの復活、婦人達の喜悅
(馬可十六章一、馬太廿八章一—九)

榮光面日出墳塋。照破當前愚昧兵。
善女數人心一貫。返魂香外認回生。

第四十三

エマオの途上、イエス二弟子に現はる

師弟悠々交未深。分明行旅二人心。
知他垂訓溫于日。一刻同餐價萬金。

第四十四

イエス拾弟子に現はる
(約翰二十章十九、二十、路加廿四章四十四)

十人閉戸共競々。忽見慈顏當室明。
經過幽冥真自在。燈前親把聖經評。

第四十五

イエストマスの疑を解く
(約翰廿章廿四—三十)

基督來呼士馬斯。掌摩目擊頓消疑。

縱如史筆歸痴夢。猶勝孔丘嘆老時。

第四十六

イエス弟子たちも祝福し聖氣を吹て昇天す

(路加二十四章四十五以下参照)

山海絶塵神現形。福音傳授最丁寧。

人間到處有兄弟。祝禱無端吹聖靈。

結末

(約翰傳廿一章十五—十七)
使徒行傳一章八、九

橄欖山頭入瑞雲。清風長與草花薰。

聊將驚筆趁遺跡。豈有猿心到舞文。

人未學詩思鯉氏。余雖挾冊愛羊群。

唯祈夫子浩然氣。吹鼓詞場救世軍。

投筆

(使徒一章十、十一、同二章卅四)
馬可十六章廿、約翰廿一章廿五

一管心望天一方。神人座在白雲鄉。

溫良顏色如名玉。遍照榮光似太陽。

示訓兆民眞理潔。旋恩萬世福音香。

苦吟欲効亦投筆。三十三年錦繡腸。

附

錄

春 基督教徒大親睦會歌

天真爛熳優美櫻。天真爛熳親睦情。

各派贊成明旗幟。衆人運動任縱橫。

縱橫畫策奮傳道。男女團樂謹捧禱。

日本萬歲太陽溫。教會萬歲福音浩。

活水愈流堪洗塵。心田既熟足刈稻。

刈稻時來不待秋。聖靈恩化遍全州。

文明利用適朝野。安息厚生及馬牛。

降參要容儒兼佛。進步何憚米與歐。

高而鳴謝者烏鵲。低而勤勞者蟻螻。

鳥虫亦能報上帝。吾黨焉可輕今世。

含笑名山芳雪飛。吐虹名說妖雲霽。

姊妹相和音樂酣。兄弟共遊趣味甘。

萬民贖罪唯賴十。一體御位便分三。

閑倚青松敲信仰。聯合精神是出藍。

復活節頌

三日寂寥鎖墓扉

朦朧曉色是耶非

香華頻灑女人淚

霓羽忽輝天使衣

大石轉來羔復活

春雲應接鶴高飛

一堂談和四山笑

氣霽風溫草木肥

婚禮祝詞

彩鳳雙飛翼有神

神犀燃燭證芳因

藍田播種石成玉

滄海尋盟夢作眞

密月みつげつ從今いまより歐米例おとべいのれい。

心花しんくわ無限かぎりなし國家春こくかのはる。

喜君よろこび更被さらさら嬌こころ喉はげ勵まをされて。

溫厚おんかう交人ひまはせり辨益べんます益振よくふる。

慰あぐ

籍なまめ

（詠約伯事）

驢駱ろらく牛羊ぎやう數幾かずいく千せん。

融々ゆうゆう無事なごみ果何はたして春はる。

神前しんぜん獻祭まつりをけんじ身三省みさんせい。

膝下しゅうか奉歡くゆんをほうせ兒こ一聯いちれん。

天未定てんいまだ時妖ときまじ稍勝や、かち。

人將死ひとまな處節しせん愈堅すさこころせついでよくかたし。

黑雲こくうん滿地まんち風吹散かぜふきさんじ。

春色しゆんしよく回來かへりきたつて笑語せうご圓まる。

基督くりす降誕すま祭小詩のせうし

水淨山高早記名。

吟魂萬里趁勝行。

德星照破人間黯。

如玉嬰兒憂有聲。

又

大關小村非小村。

明君一出照乾坤。

小生亦効牧人事。

指道東西南北奔。

又

欲和萬軍天上歌。

童男童女入堂多。

歲寒乃見春風暖。

基督樹邊驅惡魔。

又

天祐邦家事々宜。

此間漸覺弊風移。

贈酬先表交情好。

人較梅花笑未遲。

新年祝詞

謹祝此新年。

福音到處傳。

金甌無缺國。

紅旭欲明天。

雲閣贊鴻業。

草廬愧瓦全。

春風颺旌旆。

梅柳氣爭先。

新年祈禱表

謙遜及感謝

狐疑醜態誤天真。

幾使英靈蒙汚塵。

要拭一齊懺後淚。

恩波沐浴禱聲新。

公同教會

各派一同夢亦靈。

好將新約共呼醒。

人間若有移山信。

何處窮民不醉經。

國民及施政者

君也可君臣可臣。

君臣要問義兼仁。

俯祈天下福音遍。

仰頌太王正月天。

家庭及學校

家庭在世即梁楹。

學校於人是邑城。

刮日聖靈徐鼓舞。

鐘々訓練幾精兵。

外國傳道

四海弟兄傳福音。

天涯隣屋領安心。

更因天父恩波溢。

洗盡異端邪說林。

朗吟集大尾

内國傳道及猶太人

有命君開天國門。 匪躬臣汲永生泉。

幸然更被稱神子。 復爲阿兄祈赦恩。

密月從今歐米例。 心花無限國家春。

喜君更被嬌喉勵。 溫厚交人辨益振。

慰籍 (詠約伯事)

驢駱牛羊數幾千。 融々無事果何春。

神前獻祭身三省。 膝下奉歡兒一聯。

天未定時妖稍勝。 人將死處節愈堅。

黑雲滿地風吹散。 春色回來笑語圓。

基督降誕祭小詩

内國傳道及猶太人

有命君開天國門。 匪躬臣汲永生泉。

幸然更被稱神子。 復為阿兄祈赦恩。

朗吟集大尾

明治三十一年六月二十日印刷
明治三十一年六月廿六日發行

著者

井上文慈郎

發行者

大阪市西區新町通四丁目百六番邸
矢部外次郎

印刷者

大阪市西區土佐堀三丁目十番屋敷
藤井護三郎

印刷所

大阪市西區土佐堀三丁目十番屋敷
藤井改進堂

發行所

大阪市新町通四丁目
福音社

廣
別

東京市采女町
警
權
社

R-14

宮川經輝氏著

○蘇溪教話

定價貳拾錢
郵稅四錢

本書は宮川先生の講話の粹の粹なるもの六拾餘種を集めしものにて本書を繙かば恰かも先生より親しく接して聽聞すると異なるなし先生の實驗紙上を通して來り翻然迷霧を脱却して大に信仰の奧義を悟るの資とならん

宮川經輝氏演說

○基督教と忠君愛國

定價壹冊貳錢
百冊壹圓六拾錢

附神儒佛に對する意見

○眞の安心

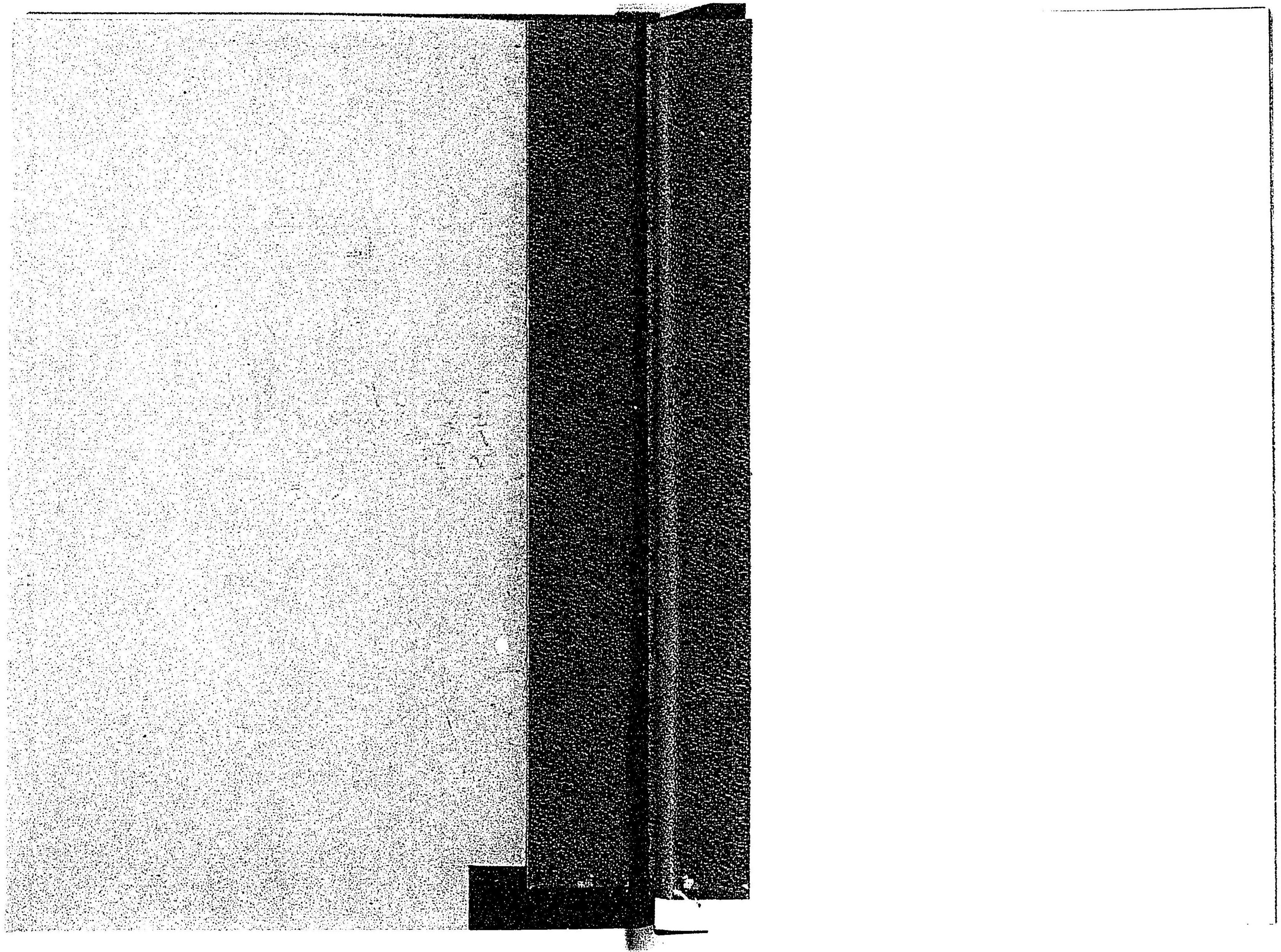
百枚ニ付貳拾錢
郵稅八錢

○眞の神

百枚ニ付拾五錢
郵稅六錢

○神の語

百枚ニ付拾五錢
郵稅六錢



3
6